
気まぐれバス

木の実

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

気まぐれバス

【Nコード】

N0458Q

【作者名】

木の実

【あらすじ】

バスの中。ただ気まぐれに、キスしたくなった。

ふと、隣を見る。

今はバスの中。一番後ろの席に座っている。窓側には20代前半のスーツを着た男性が眠っている。最初は混んでいたけれど、田舎に近づくにつれて、人がどんどん降りていき、今では5、6人しか乗っていない。

もう一度、見る。

今、私を見る人はいない。みんな私より前にいるからだ。隣のスーツの男性を除いては。

別に欲求不満なわけじゃない。

ただの好奇心。

ただの疑問。

もし、私がこの男性にキスしたらどうなるだろう。

頭がふわふわしてきた。

もう全てがどうでもいい。

身体を静かに寄せる。

ゆっくり顔を近づける。

すやすや、という効果音が似合うような。

心地良さそうな寝顔。

ああ、引き寄せられる。

そつと。

彼の唇と私の唇を合わせる。

ほんの、2秒。

息を止めて、目を閉じる。

離れたとき、まだ男性は眠っていた。

物足りない。

物足りない。

気付いて。

私を感じて。

今度は強引に、唇をつける。

さすがに、男性は目が覚めた。

驚いた表情。

当たり前だ。

セーラー服を着た女子高生がキスをしているのだ。

しかも、見たことのない人間。

顔を背けようとする彼を。

なぜだか、引き留めるように。

私は顔に両手を添えて、深く唇を合わせ続ける。

最初は押し返すように私の肩を握っていた男性も、だんだん力が抜けて、腰に手を回す。

一方的だったものが、お互いを求め合うように。

口を開いて、舌を絡ませる。

甘い吐息。

ただひたすら、相手を感じる。

満たされてゆく。

身体の奥から熱が溢れ出す。

ああ、生きている。

生き活きと、生き生きと、身体が疼く。

それを確認して、安心する。

もう一度軽く唇を合わせて、右手でピンポンを押す。
運転手の気だるい声。

私は彼から離れる。

彼は私を見る。

私も彼を見る。

深々と頭を下げて。

もう、会うことはないでしょう。

心の中でそう伝える。

なぜなら、これは気まぐれ。

このバスは絶対乗ることのない方向。

降りたあとは、反対方向のバスに乗るまでだ。

何事もなかったかのように。

私は席を立つ。

まだ、素っ頓狂な顔をしている彼を乗せて。

バスは、私の知らない場所へと走りつづける。

（後書き）

バスの中って、他人がいつぱいいて、なんだかふわふわします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0458q/>

気まぐれバス

2011年1月13日07時43分発行